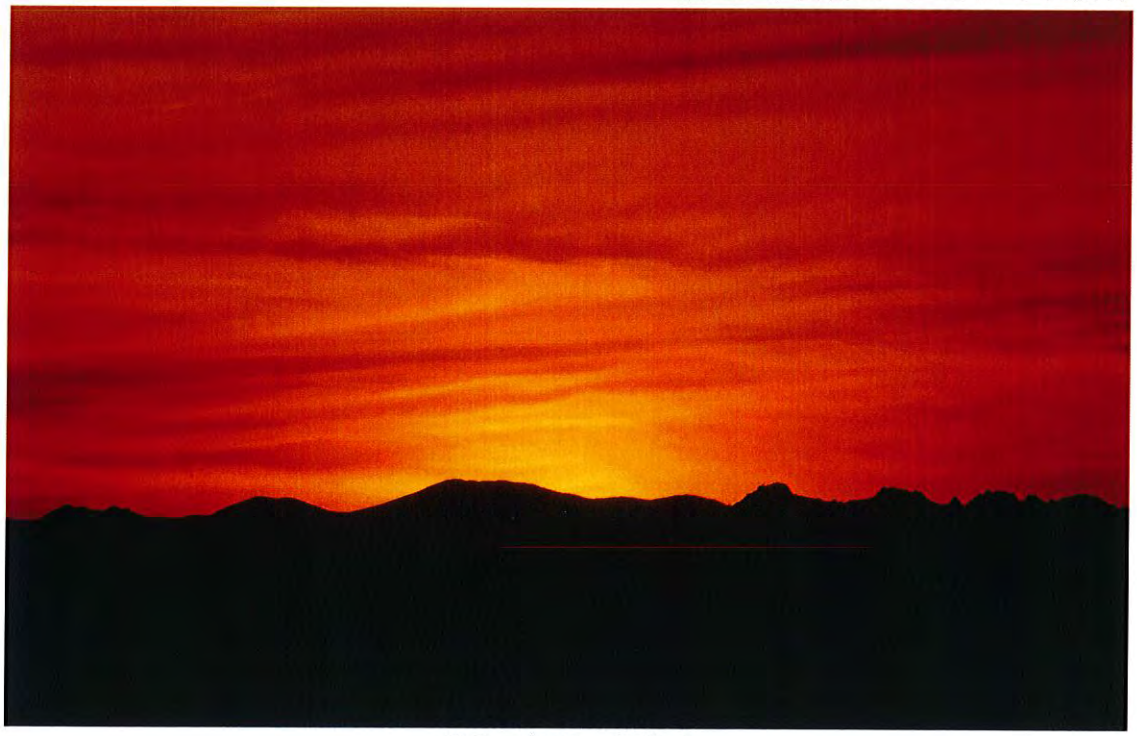
つまりぽーと

(一社)十日町市中魚沼郡医師会 会報
第46号平成25年10月1日発行



「夏の高原の記憶」

山口医院　理事長　山口孝太郎

一般社団法人　十日町市中魚沼郡医師会

巻頭言 …… 1

理事就任の挨拶 …… 3

ご寄稿 …… 4

県立十日町病院の今後 …… 6

休日一次救急のセンター化試験実施について …… 8

第1回 通常総会議事録 …… 10

十日町地域産業保健センター事業報告 …… 13

平成25年度 新潟県・十日町市総合防災訓練 …… 14

地域医療魚沼学校 活動報告 …… 17

十日町市中魚沼郡学術講演会 …… 20

事業報告 …… 22

お知らせ・編集後記 …… 24

《表紙解説》

「夏の高原の記憶」 美ヶ原高原から見た北アルプスの夕暮れです。槍、穂高、乗鞍岳などが見えています。ごくたまにしか行けませんが、この日は晴天に恵まれて感激しました。
（山口孝太郎）

「巻　頭　言」

医療法人　小林内科医院
院長　小 林 次 雄

介護保険制度は2000年度に創設された。その背景には家族構成や少子高齢化といった社会的変化、疲弊した老人福祉制度、社会的入院などによって膨らんだ老人医療費などへの対応があった。介護が必要になった人は、介護保険料を払うことにより国との契約による介護サービスを利用する権利を得た。当初287万人だった利用者数は2011年には517万人に増え、給付費も2001年度4.1兆円から2012年度8.4兆円となり、2025年度には19.8兆円となるという。これからも年6.6～6.8%の増加の見通しである。個人が負担する介護保険料は標準で当初の2000円台から5000円となった。

2006年度には「地域密着型サービス」、2012年度には「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が導入され、在宅サービスの選択肢が増え、看護と介護のより密着したサービスが可能となった。そして在宅サービスの利用者は2001年度の200万人から2011年度には404万人と倍増している。しかし施設利用者は88万人から114万人に増えたにすぎない。

一方、特養への入所待機者は在宅利用者の15%に相当するといわれている。つまり根強い施設志向があるが、入所できないので仕方なく在宅サービスを利用せざるを得ない現状がある。厳しい財政制約の見通しの下、多額のコストがかかる施設の供給量を大きく増やすことは困難である。施設から在宅へのシフトが必要になってくる。

ある試算によると、要介護5の利用者の在宅での介護は施設でのそれの2～3倍のコストがかかるとのことである（施設と同程度のサービスを受けるとして）。支給限度額をはるかに超えてしまうため超過分は自己負担となり、サービスの質と回数を控えざるを得なくなる。この格差が在宅利用者の不公平感と施設志向が高まる一因となっているという。またデイサービスやショートステイなどの在宅サービスの量的供給が十分でなく、夜間や休日のニーズに対応できていないことも施設志向の動機となっている。在宅介護の使い勝手の悪さが問題となってくる。

ドイツは介護保険の先進国であり、日本の介護保険のモデルとなった。ドイツでの要介護認定は厳しく、重度者に給付対象を限定していて、我が国の要介護3，4，5に相当する3段階だけで、それ以外は給付の対象外だという。施設での限度額は我が国の平均利用額の半分程度で、そのため入所者は毎月20万円程度を負担する必要があり、これは我が国の平均負担額の倍になるという。このように、ドイツでは施設入所者に高額のコスト負担を求めることにより、施設から在宅へのシフトが促され、さらに在宅サービス利用者には現金給付も行われ、家族の介護への積極的な参加が促進されている。

日本では社会保障国民会議が「社会保障の持続可能性を高めていかなくてはならない。そのために、給付と負担のバランスをとっていく」との答申を出した。要支援の介護予防サービスを介護保険から切り離していく方向のようである。厳しい財政事情の中、これまでと同

じように給付費を増やしていくことは当然不可能であろう。そのためには、もっと踏み込んだ改革が必要ではないだろうか。

現行一割の施設入所者の負担割合を増やしたり、介護以外のホテルコストなどをカットしたりして、施設から在宅へという流れを作るべきだという意見もある。施設給付の減少分を在宅の充実に回し、介護産業を成長産業として育成活性化すべきとの声もある。実際、在宅介護サービスの改善、充実化は急務であると思われる。

介護保険受益者負担増大には、当然批判があり、医療保険や生活保護制度など他の社会保障制度を含めた枠組みで議論されなければならないだろう。そして、介護保険料や負担金を上げるだけではなく、その配分の効率化、重点化によって、より公平で活性化されたものに高めていく必要があるだろう。

（医師会入会：平成 04 年 04 月）

理事就任の御挨拶

あさだ皮フ科
院長 浅田一幸

このたび当医師会の理事に新しく就任いたしました浅田です。未熟者でありますが、会員皆様のご指導を受け賜りながら頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介をしたいと思います。私は十日町生まれ十日町育ちであります。いずみ保育園、西小学校、南中学校、十日町高校を卒業し、一年浪人の末、新潟大学医学部に入学しました。大学時代は水泳部に所属しておりました。その部は医学部のみの団体ではなく、全学部合同の部でした。そのため、部員は100人近くおり、みんな仲良く、朝、夕の練習の他、飲み会、数々のレクリエーションが目白押しで、私の大学生活は水泳部中心でした。その時の仲間との出会いは私の大きな財産になっています。今でも同期をはじめ先輩、後輩との交流があり、時々会合を設け、昔話に花を咲かせることもあります。妻も同じ水泳部の同期です。

大学卒業後は、新潟大学医学部皮膚科学教室へ入局し、附属病院他、立川綜合病院、村上総合病院などで勤務し、さらに異色ではありますが、開業前は新発田市の先輩のクリニックで1年間の修業をし、平成17年5月に当院を開業させて頂きました。開業を志したのは早く、医師2年目の時でした。その当時、新津市にある私の大先輩の医院のお手伝いをさせて頂く機会がありました。患者さんが非常に多い中、その院長はとても丁寧に診療をされており、地域に根差して、そして愛されている姿に大変感銘を受けたのがきっかけです。それ以来、私も開業医になることを目標とし、さらに地元十日町での開業を夢見ておりました。

家族構成は妻、長女（西小5年）、長男（西小3年）の4人家族です。息子は相撲協会には入っておりませんが、市内の相撲大会に参加し、せき整形外科・関院長の御子息と対戦し、何回も負けております。

私の趣味はゴルフと温泉です。ホームグランドは十日町カントリークラブと千手温泉千年の湯です。温泉では患者さんにお会いすることが多々ありまして、私の存在も徐々に知られるところとなり、温泉につかりながら診察が始まることもあります。専門外のことも聞かれることが時々あり、私の無知を精一杯隠しながら、会話を楽しんでおります。

私の診療のモットーは、「奥歯でかみしめた診療」を心がけることです。なかなか一人ひとりに診療時間を多く割けることはできませんが、すぐ飲み込むことなく、奥歯でかみしめ味わって（適切な表現ではないかもしれませが）、医療を提供したいと思っております。開業して早いもので、今年で9年目になりました。最近では、十日町中魚沼圏域のみだけではなく、南魚沼、魚沼、小千谷、柏崎、栄村からもわざわざ当院へ来て頂けるようになりました。これからも知識を高め、人間味のある診療をしていきたいと思います。

私の世間知らずのために、医師会について取り巻く環境に対して述べることはできません。皆様にご迷惑をおかけするかも知れませんが、これから少しずつ勉強していき、今までお世話になってきた当医師会のお役に立てるよう努めてまいりたいと思います。今後とも皆様のご指導の程、よろしくお願いいたします。

「豪雪地の思いで」と「訪問診療のこと」

新潟県労働衛生医学協会十日町検診センター
センター長　室岡　寛

この度、25 年春の叙勲に際し、瑞宝小綬章の栄に浴しました。これも県立十日町病院職員はもとより、地域の皆様に助けられ教えられながら育てていただいたことによるものと思います。感謝申し上げます。

そこで十日町へ赴任した頃の豪雪の思いでと現在訪問診察で感じていることなど書かせていただきます。

私は昭和 54 年に県立十日町病院へ赴任いたしました。その頃の思いでの一つを書いてみます。私は十日町よりさらに豪雪の地の生まれでしたので雪には慣れているつもりでしたが、56 豪雪にはさすがに驚きました、山間地の大雪も大変ですが、家が建て込んでいる地域での大雪は私の想像を超えていました。56 年から 3 年ほど大雪が続いたかと思います。

その豪雪の年でした。市からの往診要請がありました、こんな事はめったに無いことなので何事かと思いました。慢性呼吸不全のお年寄りが風邪をこじらせ重態、いくつかの医療機関に当たってみたが対応できないとのこと。輸液・酸素などを用意して出かける事にしました。雪のため救急車では無理とのこと、市のジープで行く事になりました、さらに途中からは除雪できる道路環境でなく雪上車で向かいました。患者さんは極めて重症で入院のため搬送が必要、しかし車が入れない状態、危険を冒して途中まで橇での搬送ということになりました。輸液・酸素吸入をしながら搬送を開始、しかし間もなく心肺停止になってしまい、雪中での気管内挿管・心マッサージとなりましたが残念ながら救命できませんでした。その後十日町市では克雪都市宣言をし、道路の拡幅など除雪体制を整えました。ジープと雪上車で向かった地域も冬でも救急車が入れるようになっています。現在では道路の除雪体制も格段に良くなって殆どの地域で冬でも車が入れるようになりました。しかしさらに標高の高い山間地では降り続く大雪の日は除雪車の懸命な作業にもかかわらず、四駆車でも坂を登れなくなってしまう事があります。訪問診察ではこのような事も考えておかなければならないと思いますが、病状の急変時の対応には心配が付きまといます。

私は、松代・松之山地域の訪問診察で松代病院のお手伝いをしております、訪問診察で感じることは、この地域はご高齢の方が多く家族としての介護力には問題のあるお宅が多いのですが、ご近所の方の面倒見のよさや福祉関係の方のご協力で在宅医療が維持されていることです。しかし時に患者さんご自身・周囲の方の病状の判断？に驚かされることもあります。訪問診察を通して高齢者医療について感じた事を書かせていただきます。地域差もあることと思いますが、高齢者の一人暮らし、高齢のご夫婦のみの世帯が多くなっていることがあります（実際には 65 歳以上の方でもお元気で地域の中心的役割を果たされている方も多く、現在の感覚からは 65 歳で線を引くのは非現実的かもしれませんが）。十日町市全体で見ますと、一人暮らしの高齢者は 1577 人、一人暮らしを除く高齢世帯は２２０５世帯（平成 19 年 4 月現在）となっております。一人暮らしの場合ご近所の方やヘルパーさんの訪問に助けられる事が多々ありました。高齢のご夫婦

だけの場合、一人ではないのである程度安心してみている事がありますが、実際にはどちらか一方が体に不自由があったりしますと介助しながらの通院には困難が伴うようです、特に大雪の場合一方だけが病院にこられ薬だけということになりがちです、さらに重症化していても一見普通に見える場合病状の把握が出来ず治療に難渋する事もあります。特に認知症の程度が軽い（？）場合、周囲の人も安心しているため思わぬ落とし穴があるようです。

高齢者のみでない世帯でも、昼間は仕事の関係で認知症の高齢者一人という事もあります、このような場合本人からは必要な情報は得られず、ヘルパーさんの連絡帳に助けられる事がありました。

介護保険の趣旨は高齢の患者さんを地域で見るということになっております、しかし現実には在宅医療・介護ではご家族の介護力に負う所が極めて多い、その上で地域の方々特にご近所の方、福祉関係の施設やヘルパーさんなどと私ども医療関係者との緊密な協力の上に成り立つものと思います。

近年、国家予算に占める医療・介護の費用が毎年増加し抑制が避けられない状態になっております、このような事から在宅医療を積極的に進めることが求められております。さらに高齢者介護サービス利用の自己負担割合の引き上げも検討されている昨今です。いかに効率の良い満足のいく在宅医療が可能か医療関係者も悩まされることになりそうです。

瑞宝小綬章ご受章おめでとうございます。
心よりお祝い申し上げます。
今後、ますますご健勝で、後進の指導にご尽力されます様、祈念致します。

「県立十日町病院の今後」

新潟県立十日町病院
院長　塚田芳久

平成25年に入り十日町病院改築基本設計を公表することができました。平成17年に着任以来懸案の課題が大きな節目を迎え動き出しました。次世代に免震で堅固な病院ハードを残せたとホッとしております。この間、関係各位から陰になり日向になりご協力を頂きました。この紙面を借りて感謝申し上げます。病院改築は40～50年に一度の大事業です。堅固な病院に加えて、救急隊を常駐する仕組みや回復期対応を盛り込めたことは、将来の当地の医療展開に寄与できる工夫と考えています。改築に伴う市街地開発や保健・介護とのコラボや看護師養成所併設は今後の課題として残りました。

1．地域ニーズ変化

日本の社会保障施策は大きな曲がり角にあり、この地の高齢化・少子化・過疎化は加速度がついています。病院完成後10年足らずで、高齢者人口は減少に入ります。そのころには魚沼基幹病院の急性期医療機能は充実しているでしょう。十日町病院に対する地域ニーズは高齢者救急と在宅支援に傾くことが想像されます。それに備えて回復期リハ病棟や緩和ケア病棟を準備しました。高齢化と介護力低下は社会問題になり、今回果たせなかった保健・介護との連携、特に医師会との連携が急速に進んで行くと期待しています。

2．診療機能と医師確保

行政や一般向けには17診療科を標榜することにしています。魚沼基幹と連携の中で標榜科は確保できても、常勤医は魚沼基幹病院に着任すると考えられます。標榜診療科目数にあまり意味がないことは既に承知のことと思います。新潟大学と診療連携契約を結んだ魚沼基幹への診療機能集中化と、新潟大学の医局に医師派遣を依存する十日町病院の医療過疎化は避けられない成り行きです。新潟大学に依存しない医師確保策として、総合医を育成する後期研修プログラムを日本プライマリ・ケア連合学会に申請しました。平成26年度募集開始で、県立病院網を活用した地域・在宅医療研修により総合医を育成します。

すでに循環器内科、泌尿器科、脳神経外科と引き上げが始まり、今後も眼科や内科や産婦人科から目が離せません。確かに専門医志向全盛の現代において、若手医師の目には総合医対応が求められる中規模病院の魅力は低く、大学医局も魚沼基幹病院を差し置いて十日町病院への派遣は難しい状況と理解できます。幸い現在は、外科が東京医科歯科大からの派遣であり、整形外科医局が地域ニーズを理解していることで、高齢者救急の外科系は維持されています。しかし後期研修プログラムに乗って、内科に総合医が確保されないと基本の医療機能が崩壊しかねません。このような医師不足の状況で奮闘しているにもかかわらず、都会同様の要求をする医療者非難は衰えを知りません。

３．病院の運営主体について

県のフレーム案では十日町病院は公設民営化となっており、整備基本計画には平成 27 年度に運営主体について検討することになっています。県立病院から運営主体を変えることについて、現場管理者から見ると医師・看護師確保が大きな要件になると考えています。検討予定の平成 27 年度は、魚沼基幹病院開設に伴い新潟大学から十日町病院への医師派遣が難しくなり、県立病院のネットワークに頼った看護師配置から未だ抜け出せていない公算が大きく、運営主体変更は病院存続の危機を招来すると推測しています。医師・看護師確保にめどが立つには、少なくとも 10 年前後を要すると考えています。運営主体変更に合わせ、外科医引き揚げ等の悪夢は見たくありません。

国の医療施策は平成 29 年前後に大きく変わろうとしています。病院改築のグランドオープンは平成 31 年以降になります。効率化・集中化名目の規制改革に疲弊する地域医療の中で、十日町病院がどのように生き延びていくか気掛かりです。完成前に定年を迎える私には、病院を支える地域力の盛り上がりに思いを込めて託すしか術はありません。

新潟県　病院局

平成 25 年度着工及び平成 27 年部分開院を目指し進めている「十日町病院改築事業」について、基本設計が終了しましたので、その概要を公表します。(2013. 8. 8)

◆建設地　　十日町市高山 32 番地９（現在地に改築します。）

◆構造及び規模

プレキャスト・プレストレストコンクリート造※（免震構造を採用）

地上７階・地下１階建、延床面積 約 22,000 ㎡（現病院 約 15,000 ㎡）

※　通常の鉄筋コンクリート造よりも強度が高く、工期も通常より短縮できます。

◆主な特徴

・免震構造を採用することにより、医療機器等の設備への地震の影響が最低限に抑えられ、災害時であっても病院機能を確保します。

・1 階に配置する講堂は、大規模災害時に、被災者に対する効率的かつ適切な医療を提供するためのトリアージスペースとしても活用されます。

・病室は、個室が 21 室から 80 室（約４倍）に増加し、６床室中心だった多床室も個室感のある４床室中心（47 室）に改めることで、療養環境を向上させます。

・エントランスホールの近くに、医療情報ギャラリー及び講堂を配置し、イベントの開催や医療に関する情報提供などで病院と地域をつなぐ空間を設けます。

・移動や除雪の困難な方々のために、県立病院としては初めて地下駐車場を整備します。病院正面の駐車場と併せて、外来用の駐車台数は 288 台（現在比で約 1.75 倍）に増加します。

◆建設工事期間（予定）

・　第１工区（外来診療棟部分）

　　平成 26 年３月～平成 27 年 12 月

・　第２工区（病棟部分）

　　平成 29 年３月～平成 31 年 12 月

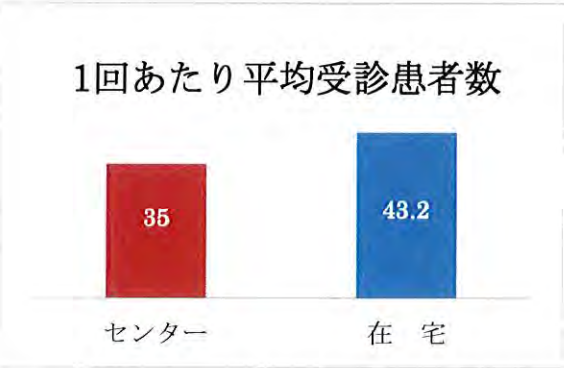
第１工区と第２工区の間は、土壌汚染調査及び現外来診療棟の解体工事を行います。現病棟の解体工事及び外構工事は、第２工区工事終了後に行います。

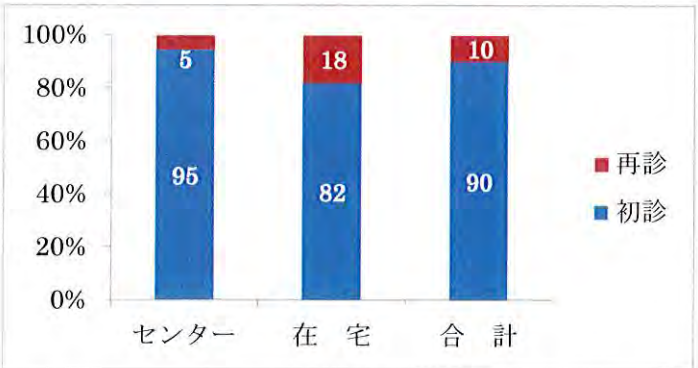
休日一次救急のセンター化試験実施について　(第一報)

会長　富田　浩

十日町市中魚沼郡医師会は平成 25 年４月７日より、十日町市・津南町から委託されている休日一次救急事業を、従来の在宅輪番制からセンター・在宅併用制として再スタートさせました。長年の検討を経て、市民の多くは休日一次救急センターの開設を望んでいることが明らかになりましたが、実際にセンター設置にあたっては休日一次救急の責任者である行政との協議の結果、十日町市立国民健康保険川西診療所内に休日一次救急センターを試験的に開設して、センター化の効果について調査することになりました。この度４月から８月の５か月間の当医師会の休日一次救急受診動向についてまとめましたので報告します。

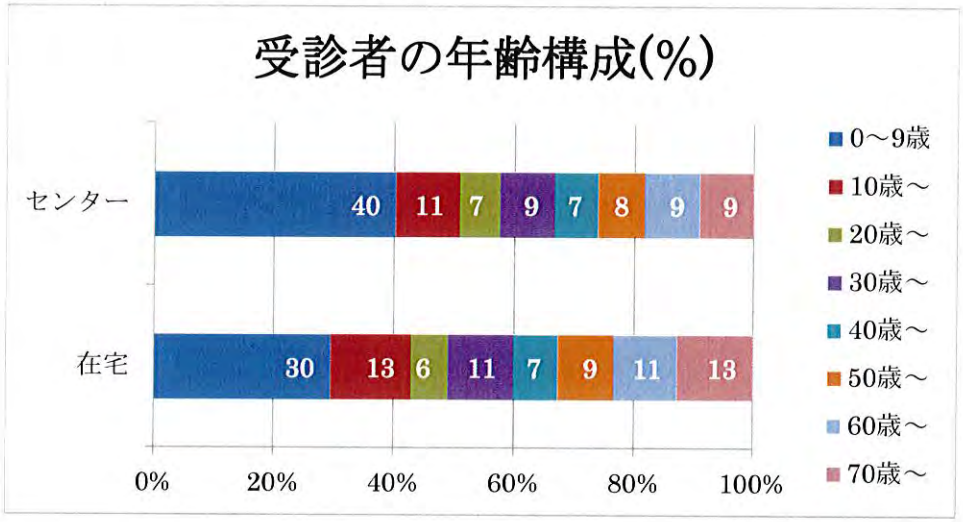
５か月の期間中にセンターで 20 回、診療所および病院群で９回の昼間の休日一次救急診療が行われました。なお受診動向の検討に際しては便宜上川西診療所での２回の診療もセンター分としてカウントしてあります。受診者総数は 1,088 名でした。男女比はほぼ同等、初診・再診別では、初診が 90%を占めました。１回当たりの平均受診者はセンターが 35 人、在宅当番医が 43 人でした。

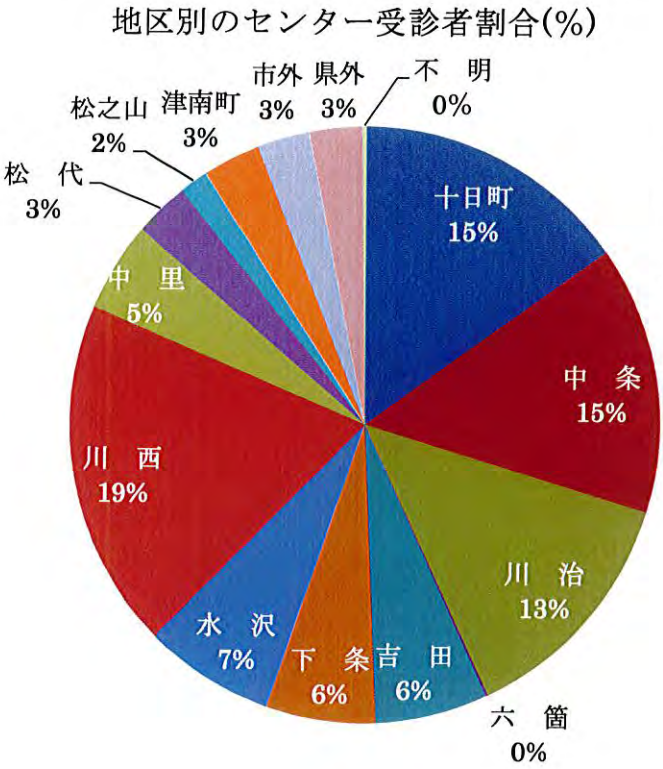


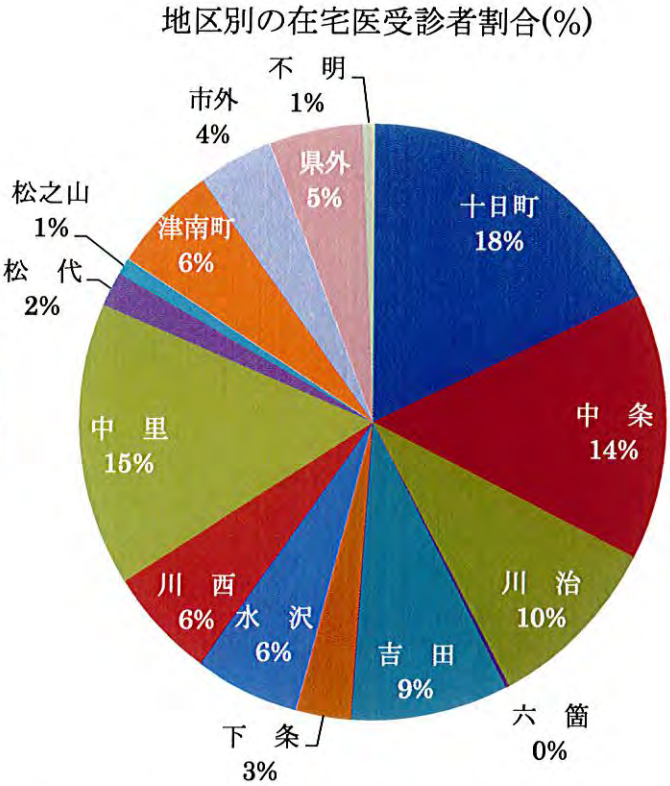


在宅当番医の平均受診者数が多かったのは、患者が集中するゴールデンウイークを在宅制のみで対応したことと、在宅当番医受診者にはかかりつけ患者の再診が 20%近く含まれることが影響していると思われます。ちなみにセンター受診者は 95%が初診でした。

受診者の年代別ではセンター受診者の 50%が 20 歳未満であり、特に 10 歳未満が高率となっており、在宅当番医でも同様の傾向でした。受診患者の地区(行政区)別での検討では、センターへは旧十日町市の各地区からは概ね偏りなく受診されていますが、郡部からは少ないように感じられました。また、センターでは川西地区から受診される患者の比率がやや多い傾向にありました。これらはセンター所在地の影響によると思われます。







患者の受診動向については今後も調査を継続し、年間を通じての集計を行って報告したいと思います。また県立十日町病院の救急外来の受診状況の変化や、医師会休日一次救急および県立十日町病院救急外来の受診者へのアンケート調査、そして休日センターの収支をまとめた上で、センター化の今後について検討を進める予定です。今後とも会員および関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

一般社団法人　十日町市中魚沼郡医師会

平成25年　第1回　通常総会議事録

平成25年6月5日　午後18時00分、十日町地域地場産業振興センター　クロス10において平成25年度第1回通常総会を開催した。

議決権のある当一般社団法人会員数　５０名
総会員の議決権の数　５０個
出席会員数（委任状によるものを含む）　４３名
この議決権の総数　４３個

出席理事　富田　浩（会長）
池田　透（副会長）
山口義文（副会長）
高木成子
登坂尚志
河野充夫
上村　斉
出席監事　小林次雄（監事）

以上のとおり、定款第4章第16条3項による総会員の議決権の数の3分の2以上に相当する会員の出席があったので、定款の規定により会長　富田　浩が議長を務め、本医師会通常総会は適法に成立したので開会する旨を宣した。

1)　開会

2)　会長挨拶

会長より、新潟県労働衛生医学協会十日町検診センター　センター長　室岡寛先生の「瑞宝小綬章」叙勲のお祝いの言葉を伝え、参加会員に今回の総会開催について、参加を頂いた御礼の挨拶があった。

3)　報告事項

1. 新潟県医師会郡市医師会長協議会報告

会長より、次の項目について資料に沿って説明がなされた。

- 新型インフルエンザ対策について
- 地域医療再生基金について
- 魚沼基幹病院設立に向けた取組について

1. 魚沼地域医療連携ネットワーク協議会について
この魚沼地域医療連携ネットワークを「うおぬま米ねっと」と名称が決まった報告と資料に基づき協議会の報告がなされた。
6月の末にNTTが当地域にて説明会を開催するとの報告があった。
2. 十日町地域在宅医療連携協議会（仮称）について
山口副会長より、今後、標記協議会を立ち上げる旨の報告と、資料に基づき会についての説明がなされた。
3. 法人改革制度による一般社団法人移行について
資料の書面にて報告された。
4. 地域医療研修医事業について
平成25年度の地域医療研修医受入計画について説明があった。
5. 医師会事業計画について
十日町市中魚沼郡学術講演会の報告と計画、十日町市からの委託事業「住民の医療参加事業」、医療従事者スキルアップ事業、日本医師会認定産業医研修会の計画案、十日町地域糖尿病ワークショップ事業の計画案等について、資料の書面にて報告された。
6. 十日町地域産業保健センター事業について
コーディネーターより、5月3日に行われた「とおかまち　きものまつり」での無料健康相談結果等の報告があった。
7. 新潟県総合防災訓練について
今年度、新潟県の防災訓練の当番地が十日町市になり、新潟県と十日町市の合同開催となる。会場は十日町市立西小学校を中心に周辺の施設などが会場とされる。当医師会の当日の役割など資料の書面にて報告された。
8. 平成25年度　休日救急の進捗状況について
今年度4月、5月の休日救急医利用患者の報告を資料の表に沿って報告された。

1)　議事

一般社団法人へ移行により改正された定款第4章第12条により、議長を富田　浩(会長)、副議長を池田　透(副会長)に選任された。

議長より、議事録署名員の立候補を求めたが候補者が出なかった為、議長より登坂健二郎（裁定委員）と田中陽一（新潟県医師会予備代議員）を選任し、両者より承諾いただいた。

第1号議案　平成24年度　入退会異動報告

資料に沿い、報告がなされ出席会員により承認可決された。

第2号議案　平成24年度　事業報告

資料に沿い、報告がなされ出席会員により承認可決された。

第3号議案　平成24年度　収支決算報告

議長の指名により、事務局長より資料に沿い説明があり、監事　小林次雄より社団法人十日町市中魚沼郡医師会　会計について監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であったことを証明すると報告がなされ、出席会員により承認可決された。

第4号議案　一般社団法人以降による役員改選

平成25年4月1日に一般社団法人へ移行したことの報告があった。議長より、一般社団法人へ移行したことにより第1回通常総会前日の6月4日をもって役員の任期満了の為、退任となる事を報告し、選挙を行う旨を告げ議場に諮ったところ定款施行細則第10条により、下記の者が当選し承認された。当選人は就任を承諾した。

新潟県十日町市上新井1145番地2
　代表理事（会長）　富田　浩
新潟県十日町市314-1
　理　事（副会長）　池田　透
新潟県十日町市子208番地
　理　事（副会長）　山口　義文
新潟県十日町市寿町3丁目4-16
　理　事　河野　充夫
新潟県十日町市寅甲48-1
　理　事　登坂　尚志
新潟県十日町市山崎ロ154
　理　事　上村　斉
新潟県十日町市四日町1318-35
　理　事　関　真人
新潟県十日町市稲荷町3南4-10
　理　事　浅田　一幸
新潟県十日町市中条
　監　事　小林　次雄
新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡戊881-3
　監　事　林　裕作

参　与　室岡　寛　・　山口　孝太郎
裁定委員　富田　三郎　・　大島　義隆
　登坂　健二郎　・　上村　晃一
新潟県医師会代議員　池田　透
新潟県医師会予備代議員　田中　陽一

第５号議案　魚沼圏域健康福祉ビジョン推進会議　役員１名　推薦

議長より、議決を要するものでは無いので会長一任でお願いしたい旨説明があり会員より了承を得た。

以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、午後19時30分に閉会した。上記の決議を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名員が署名捺印をする。

平成　25年　6月　5日

一般社団法人十日町市中魚沼郡医師会第１回通常総会において

☆☆　平成24年度 十日町地域産業保健事業実績報告書　☆☆

期間：平成24年4月1日～平成25年3月30日

Ⅰ.基本的事項

1. 実施機関名（委託先）　：　新潟県医師会十日町地域産業保健センター
2. 労働局名　：　十日町労働基準監督署
3. 圏域の数　：　２（十日町市、中魚沼郡津南町）
4. 従事者　：・産業医　21名
   ・保健師　6名
   ・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　1名

Ⅱ．事業実績

特定健康相談

■場所別開催回数

・医療機関　：　93回（うち、夜間・休日：0回）
・事業場訪問　：　2回（うち、夜間・休日：0回）
・その他の施設　：　20回（うち、夜間11回・休日9回）

■相談実施件数

	合　計	
	計画	実績
①　健康診断に基づく医師の意見　相談事業場数	150	223
〃　意見対象労働者数	1,200	1,592
②　脳心臓疾患有リスク者保健指導	800	1,051
③　メンタル不調者　相談・指導	10	85
④　長時間面接指導者数	10	18

Ⅲ．事業場訪問健康講話・産業保健指導・産業保健事業説明会

①　健康講話・保健指導　：　150事業所・参加者501名
②　メンタルヘルス　健康講話・保健指導：83事業所・参加者276名
③　産業保健事業所説明会：243事業所・参加者745名

平成25年度 新潟県・十日町市 総合防災訓練

会長　富田　浩

9月1日の日曜日十日町市市立西小学校・総合体育館・博物館を会場として平成25年度新潟県総合防災訓練が行われました。台風の影響で悪天候が心配されましたが、慣れないヘルメットやライフジャケットを着ての訓練でしたので、雨のち曇りでかえって暑くならず助かりました。十日町市中魚沼郡医師会からは私が災害医療コーディネートチーム員活動と、医師会事務局とともに応急医療・救護所訓練に参加しました。また田中先生が警察医として多数遺体取扱い訓練に参加されました。その日の活動について感想を添えて報告します。

まず総合防災訓練の数か月前から訓練に関しての入念な準備が行われました。平日の昼間に多くの関係者が集まり何回もの会議が開かれました。そのたびに多くの問題点が指摘されたのですが、訓練のための訓練にならないようにリアリティーを持たせようと意図すればするほど、現状の災害時医療体制の問題点が浮き彫りになり、大きな不安に襲われたのでした。例えば、災害時医療コーディネートチームの長は武藤十日町保健所長となっています。しかし現保健所長は南魚沼保健所長と兼任で南魚沼在住です。大地震を想定した場合、発災時に掛け持ちで指揮を執ることができるのかどうか？交通が分断された中でいち早く駆けつけることは可能なのか？という疑問が出されました。代行には規約では医師会長ならびに副会長が指名されていますが、実際問題として十日町病院長の方が適任であろうとされました。私にも保健所長と同じ心配があり、私の自宅からは信濃川を越えなければ、例えば県立十日町病院へ駆けつけることはできません。実際に中越大震災の時は二つの橋が一時通行止めになりました。そもそもコーディネートチームの招集基準や集合場所、招集に当たっての連絡方法なども依然として曖昧です。確実な連絡方法や連絡責任者を決めておく必要があります。当日は総合体育館前での消防隊による高所救出訓練や、訓練の華ともいえるヘリコプターによる患者吊り上げ搬送訓練が終わった後、片隅のテントをコーディネーターチームの集合場所として模擬会議が行われました。参加者は十日町保健所長および担当者、十日町病院塚田院長、医師会長(私)と上村薬剤師会長です。シナリオに沿った報告や発言を行い、状況の把握とDMAT到着前の手筈を整えたことになっています。訓練の最後にもう一度報告のために集まることを打ち合わせ、本部に保健所長を残して私と薬剤師会長は市営の救護所へ、十日町病院長は病院へ戻って応急医療・救護活動に参加です。

総体前駐車場には十日町病院と市営救護所を模したテントが立てられ、そこに模擬患者さんが救急車や地域消防団によって搬送される、あるいは自力で歩いて受診されるという設定です。十日町病院へは長岡日赤DMATが、市営救護所には六日町病院DMATがコーディネーター指示により配置されることになっていましたが、シナリ

オ通りとは行かずに市営救護所にはDMATが到着前から患者さんが次々と到着します。あらかじめ患者番号と重症度を決めてあったので、傷病名に照らし合わせてトリアージを行い治療を開始するという約束になっていましたが、DMATが診ることになっていた赤タグの患者さんがDMATの到着前から2名搬送されるという手違いがあり救護所は混乱。最初は医師は私のみ。市の保健師も黄色タグの処置に追われ、市の事務方もバタバタしているだけという困った状況で訓練は始まりました。特に頭部打撲で搬送された患者さんが、一次トリアージでは黄色タグとされながらも診察待ち中に急変して赤タグに変わるという凝った設定もありましたので、一遍に2人を独りで診ることになった私は大慌てしていました。そこへ“話が違うじゃない？”と言いながら六日町病院DMAT丸山先生が登場。すぐにテキパキと同行の看護師さんたちを指示して現場を仕切ってくれました。おかげさまで私は予定通り黄色タグの治療へ回ることができたのですが、混乱の原因は患者のプロフィール設定がなかったことだと思います。傷病名とトリアージ分けは事前に決めてあったのですが、バイタルや外傷の程度などは打ち合わせていませんでした。例えば酸素を必要とするのかとか、ライン確保が必要なのかとかが判りません。模擬患者さんには頭部打撲のムラージュ（模擬外傷メイクアップ）などが施してありましたが、血圧80-60mmHg、呼吸数30回、CRT（爪床毛細血管再還流時間）2秒以上などと胸にでも貼紙して来てくれれば、“ハイ酸素用意して、アンビュー使って、ライン確保して。”とか“2次搬送を要請。”とかすぐ反応できたと思いました。しかし丸山隊長は見事なアドリブで模擬患者さんを重症患者さんらしく仕立ててくれました。さすがはエマルゴシステムのインストラクターだけあります。私は現場での応用力のなさに反省しきりでした。それにしてもトリアージと応急医療には、日頃の訓練が重要だと痛感しました。一部の医師や看護師だけが習熟していたとしても、災害はいつ、どこで、どんな規模で起こるか予想できません。なるべく多くの医師や医療関係者が参加できる訓練が必要と思います。しかし例年のような救護所を作り模擬患者を仕立てるような野外訓練では関係者に準備や実行に大きな負担がかかり過ぎます。その点では前述のエマルゴシステム等の机上訓練を取り入れるのが一案だと思われます。また、新潟県の災害時の医療救護体制のマニュアルでは、発災からDMATや他地域からの医療救護斑の参集までは、地元医師会が中心となって市町村救護班を結成して市町村が設置した救護所や避難所の医療に当たることになっています。DMATやJMATが参入した場合も協力して活動する必要があります。しかし、高齢化が進む当医師会では、被災者でもある医師会員が果たしてどの位対応できるのか心配です。そして日頃から市町村との打ち合わせをしっかりと行っておく必要があります。しかしながら現状は甚だ心もとないと言えましょう。

さて、応急医療・救護活動訓練は救護所での医療活動を災害医療コーディネートチームに報告して終わることになっていました。コーディネートチームは再度会議を開き、救護所以外にも拠点病院や避難所からの受療者数の報告を受けて集計することになっていました。実際の災害時には県の災害医療対策会議へ被災状況の一環として報

告する必要があるからです。しかし救護所からの集計が時間内にまとまらず、患者さんの実数を知ることはできませんでした。事前に設定していたにも関わらず、当日都合で欠席された模擬患者さんがいたり、トリアージが違ってなされてしまったことも一因ですが、集計担当者の医療知識が乏しかったため傷病名や重症度が判らなかったことと、年齢や男女別まで詳しく報告するというフォーマットであったことが敗因と思われます。医療関係者の災害時医療活動を支える部隊をロジステックスと呼びますが、市町村でも改めて後方支援部隊の教育や活動マニュアルの見直しが必要と思われました。

最後になりますが、てんやわんやの半日でしたが、関係者の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。そして早く訓練のためのマニュアルではなく、実状に即した災害時医療活動マニュアル十日町地域版の策定を市町村や保健所と協力して進めて行きたいと思います。

◆ 地域医療研修コーディネーター事業報告 ◆

今年度は下表のスケジュールで研修医の先生方(5名)を受け入れ致しております。
今年度も保健・医療・福祉・教育機関の他、多岐にわたり大勢の皆様のご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年度地域医療研修事業　研修医一覧表

No.	受入月	研修医氏名	指導機関 (指導医名)	所属機関
1	6月	勝見　俊介	町立　津南病院 (村山伸介)	東京慈恵会医科大学
2	7月	山口　貴子	山口医院 (山口孝太郎)	東京慈恵会医科大学
3	9月	苑田輝一郎	町立　津南病院 (林　裕作)	東京慈恵会医科大学
4	10月	真島　清実	富田医院 (富田　浩)	東京慈恵会医科大学
5	12月	永峰　翔太	山口医院 (山口義文)	東京慈恵会医科大学

～地域医療研修について～

東京慈恵会医科大学付属病院研修医　一条　慧

2012年８月、焼け付くような日差しのなか新潟県十日町市での地域研修が始まった。新潟には個人的にはスキーやスノーボードを楽しみに訪れたことがあり、「北陸＝寒い」のイメージが強かったため、「夏といってもカラっとしていて割と涼しいのだろう」と思っていた。
実際は毎日 30 度を超える真夏日。車を借りればよかったのだがレンタル費用をケチったため、炎天下のなか汗だくになりながら十日町の商店街（主にコンビニとホテルの往復）を歩いたのをよく覚えている。今思うと様々なことを体験、考えた１ヶ月であった。

私の研修は「診療所型」だったため、２日～３日のサイクルで診療所実習、訪問診療を始め、老人福祉施設、デイケア・デイサービス、療養型病床のある地域病院を研修させていただいた。大学が山梨だったため学生のときも地域研修の一環として訪問診療実習はあったのだが、ここへ来て本物を見た気がした。

訪問診療は午前中でだいたい２～３件という話を聞いたときはわりとゆとりのある診療だなぁと思ったが、実際回ってみるとその理由がよくわかった。患者さん１軒１軒の家に行くのに車で 30 分～40 分かかるのだ。一番印象に残っているのは、山間部の集落に住む患者さんの訪問診療だ。私の研修期間は夏季であったため交通に支障をきたすようなことはなかったが（カモシカに出くわしたことはあったが）、豪雪地帯である土地柄、冬季の訪問診療は想像を絶する大変さだと思った。

地域医療の最大の問題は医師不足である。中核病院の常勤内科医師が3人しかいないこと、都内の大学病院の派遣でやっと成り立っている外来、80歳を越えても引退できない診療所の医師、、、。都内の病院には山のように医師がいて、ときには医師3人～4人で“チーム”を作って患者を診ていることを思うとやりきれない気持ちになった。「医療を受けられるような地域に住めばいい」というのは間違いで、日本という同じ国に住む以上、どこに住んでも同等な医療を受けられるような制度を作るべきなのではと思う。難しい課題だと思った。母校の山梨大学でも山梨に残る医師が少なく（私もその数に入るが）、今は入試のときに地元枠を設けてなんとか医師の確保を図っている。首都圏出身で地方の国立大学医学部に入り、卒後は出身地に帰る、というのは地方に共通してみられる傾向なのだろう。入試制度から見直さなければいけないのかもしれない。

地域を知るという意味で、日々の研修終了後や休みの日に観光スポットを回ってみたのはよかった。3年に1度という「大地の芸術祭」の時期に研修がかぶったのも運がよかったと思う。パスポートを購入して美術館や博物館に行ったり商店街にある作品を見たりして、とても楽しかった。また、医師会スタッフや、ときには病院の看護師さん、院長先生の奥様に車でいろいろなところへ連れて行っていただいた。ひまわり畑、竜ヶ窪、秋山郷など美しい自然が多く心が洗われた気がした。花火大会や十日町おおまつりも病院の先生方と合流させていただき、迫力ある神輿を見ることができた。オフの時間をかなり有意義に過ごせたと思っている。

1ヶ月間あっという間でしたが忙しい中ご指導いただいた先生方にはとても感謝しています。どうもありがとうございました。

～地域医療研修について～

独立行政法人国立病院機構　東京医療センター
初期臨床研修医　和田　武

2012年9月24日から10月19日まで4週間、新潟県十日町市中魚沼郡医師会で地域医療研修を行わせて頂きありがとうございました。医師会の先生方や職員方、研修させて頂いた施設の方々など多くの方にお世話になり大変感謝しております。今回は十日町市中魚沼郡医師会会報誌である「つまりぽーと」の執筆依頼を頂き、地域医療研修について自分が感じたことを書かせて頂きます。拙文ですがご容赦頂ければ幸いです。

まず私自身についてですが、平成23年に千葉大学医学部を卒業し、同年より現在の病院で初期臨床研修医として勤務しております。なお来年度からは財団法人聖路加国際病院で放射線科後期研修医として勤務する予定です。現在の勤務先は病床数780床（精神科50床）の大規模中核病院であり、目黒区や世田谷区を中心とした東京都城南地区を含めた二次医療圏の一次救急から三次救急を担っています。各診療科の常勤医、後期研修医の下で病棟管理や救急外来当直、研究会といった業務を行っています。日常業務の中は病棟管理が主体であり、外来業務はほとんど救急外来当直のみとなっております。こういった研修を送っている初期研修医は都心部では少なくなく、外来経験や手技の数などでは地方の中核病院などでの研修と差があるとい

うのが現状です。そういった中で地域医療研修という枠組みを用いて各地域の医療を経験できることは非常に有意義な事だと思います。私自身としても、今回十日町市中魚沼郡医師会で地域医療研修を行い、普段の勤務環境では出来ない事をいくつも経験させていただきました。

地域医療研修の中核となったのは十日町病院での放射線科研修です。私が放射線科志望ということもあり、十日町病院での数年間に渡る画像検査についてご指導頂きました。十日町市周辺の救急患者が集約する病院ということもあり、記憶に残る数多くの画像を学ぶ事が出来ました。現在の勤務先での救急患者でも同様の疾患で来院された患者がいらっしゃったりと、実際の診療にも非常に役立っております。その他の活動としては、十日町市内の診療所での外来業務や訪問診療に参加させて頂きました。多くの検査機材を使用できる大規模病院での救急外来では、系統的なアプローチを省略して検査を優先してしまう事もあり、そういった施設での救急外来経験しかない私にとっては、診療所での外来業務は問診や診察といった医師としての基本に立ち返る経験となりました。訪問診療では先生方と在宅患者さんが築かれた長年の信頼関係を感じる事が出来ました。医師と患者という業務上のやりとりだけではなく、人間同士の関わりを持ち続ける姿が大変印象的でした。また今回の地域医療研修では、小学校での禁煙指導の講義を行わせて頂くという機会に恵まれました。禁煙について自身の知識を再確認する機会にもなりましたし、小学生達の素直な反応には予防医学や児童教育におけるやりがいの一端を感じる事が出来たと思います。その他も紙面には収まらないため割愛させて頂きますが、十日町市中魚沼郡医師会の方々のご厚意で多彩な病院や施設での地域医療研修を行う事が出来ました。

こうした地域医療研修を通じて私が感じたことは、業務上のみの希薄な医師患者関係ではなく、人対人の信頼関係を築くことが医師としての原点なのではないかということです。確かに必要以上に関わりを持つことは患者本人にも有害となる可能性もあると思いますが、その中で一人の人間として患者と関わったからこそ得られる、信頼ややりがいといったものが存在するのは事実だと思います。私は今後放射線科という進路に進む為、場合によっては患者さんとの直接的な接点が少なくなってしまうからこそ、これから先出会う患者さん一人一人に対して真摯に向き合っていこうと考えさせられました。私自身にも当てはまることなのですが、初期臨床研修制度の改正以降都心部に初期研修医が集まる傾向は続いており、こういった医師としての原点を経験できる機会は少なくなっているのかもしれません。専門分野が非常に細分化された学問だからこそ、初期研修医が各専門科への進路を歩む前にこうした経験をすることは非常に有意義なことだと信じております。貴重な機会を与えてくださった十日町市中魚沼郡医師会の方々を始め、協力施設の先生方、職員様方には大変感謝しております。有り難うございました。

平成25年度　十日町市中魚沼郡学術講演会　～開催報告と次回予定について～

① 拡大版：通常時参加者に加え看護師・保健師他、医療従事者関係者　（会場：クロス10）

・平成25年5月21日
演題「糖尿病性腎症の合併症症例に関する糖尿病治療～インクレチン薬を正しく使う～」
講師：千葉県立東金病院　内科部長　今村　茂樹　先生
座長：新潟県立松代病院　院長　鈴木　善幸　先生
担当：日本ベーリンガーインゲルハイ株式会社・日本イーライ・リリー株式会社

・平成25年8月20日《第1回 プライマリーケアでの認知症》（会場：ラポート十日町）
演題「認知症におけるレミニールの有効性と生活習慣病」
演 者：武田薬品工業株式会社　大田　俊郎
話題提供「十日町地域の介護保険からみた認知症患者の現状」
演 者：十日町地域振興局健康福祉部　地域保健課　課長　北島　正子 先生
座 長：新潟県立十日町病院　診療部長　神経内科　山崎　元義　先生
パネルディスカッション「十日町地域の認知症診療の現状と未来への展望」
ディスカッション1：十日町病院　神経内科の認知症診療
ディスカッション 2：診療所からみた認知症診療
ディスカッション 3：精神科からみた認知症診療
総合司会：新潟県立十日町病院　診療部長　神経内科　山崎 元義 先生
パネリスト：医療法人社団　富田医院　院長　富田　浩　先生
医療法人社団　山口医院　院長　山口 義文　先生
厚生連中条第二病院　精神科　有田　正知　先生
担 当：武田薬品工業株式会社

・平成25年9月17日
演題「心房細動と脳梗塞　－新規抗凝固薬をどう使うか－」
講 師：長岡赤十字病院　神経内科　部長　藤田　信也　先生
座 長：津南町立 津南病院　院長　石川　眞一郎　先生
担 当：バイエル薬品工業株式会社

・平成25年11月19日（予定）
演題「利尿薬の光と影・アルブミン尿の表と裏」
講師：長岡赤十字病院　腎臓内科　部長　山崎　肇　先生
座長：新潟県立松代病院　院長　鈴木　善幸　先生
担当：アステラス製薬株式会社・日本ベーリンガーインゲハイム株式会社

② 通常版：医師会・歯科医師会・薬剤師会・栄養士会　（会場：ラポート十日町）

・平成25年4月4日
演題「胃がんリスク(ABC)検診の意義～胃がん撲滅元年を目指して～」
講師：NPO日本胃がん予知・診断・治療研究機構　副理事長　乾 純和 先生
座長：医療社団法人　山口医院　院長　山口孝太郎　先生
担当：エーザイ株式会社

② 通常版：医師会・歯科医師会・薬剤師会・栄養士会　　（会場：ラポート十日町）

・6月18日
演題「長岡地域における脳卒中治療の実態と医療連携」
講師：長岡中央綜合病院　脳神経外科　副院長　竹内 茂和 先生
座長：新潟県立十日町病院　診療部長　神経内科　山崎 元義 先生
担当：ノバルティスファーマ株式会社

・7月22日《第49回妻有地区症例検討会：室岡先生瑞宝小綬章叙勲記念》
演題「日常診療で遭遇した重症心不全」
講師：新潟県労働衛生医学協会十日町健診センター　センター長　室岡　寛 先生
座長：新潟県立十日町病院　院長　塚田 芳久 先生
担当：武田薬品工業株式会社

・10月15日（予定）
演題「胃がんとピロリ菌・何をどう伝えるか？－患者教室から見えたこと－」
講師：(医)立川メディカルセンター立川綜合病院 センター副所長 主任医長 杉谷 想一 先生
座長：医療法人社団　山口医院　院長　山口 孝太郎　先生
担当：第一三共株式会社・アストラゼネカ株式会社

③ 縮小版（医師勉強会）：医師会のみ　　（会場：ラポート十日町）

・4月4日
演題「食後高血糖治療の実践 - グリニドとDPP-Ⅳ阻害薬併用の観点から - 」
講師：髙木内科クリニック　院長　髙木　正人　先生
座長：医療法人社団　池田医院　院長　池田　透　先生
担当：キッセイ薬品工業株式会社

・5月9日
演題「糖尿病合併脂質異常症に対するテーラーメイド治療」
講師：済生会第二病院　代謝内分泌内科　部長　鈴木 克典　先生
座長：十日町市国保松之山診療所　所長　登坂 尚志　先生
担当：バイエル薬品株式会社・ＭＳＤ株式会社

・6月7日
演題「新潟発ＯＡＢ治療の新たな選択肢」
講師：山梨大学大学院医学工学総合研究部　泌尿器科学　教授　武田 正之 先生
座長：田中外科医院　院長　田中　陽一　先生
担当：アステラス製薬株式会社

・9月5日
演題「腫瘍学を基盤とした胆道癌の外科治療戦略」
講師：新潟大学大学院医歯学総合研究科 消化器・第一外科学分野 教授 若井俊文 先生
座長：新潟県立十日町病院　副院長　福成　博幸　先生
担当：武田薬品工業株式会社

・10月3日
演題「認知症治療の基礎と新しい展開」
講師：独立行政法人　国立病院機構　さいがた病院　院長　下村 登規夫 先生
座長：新潟県立十日町病院　診療部長　神経内科　山崎　元義　先生
担当：ノバルティスファーマ株式会社

※　縮小版（医師勉強会）は、4月より第1金曜日から第1木曜日に変更になりました。

■□■□■□ 事業報告書 □■□■□

(2013.4.1～9.30 現在)

日付	名　称	会　場	担当者
4/ 4日(木)	十日町市中魚沼郡学術講演会(縮小版)	ラポート十日町	会員
12日(金)	平成25年度　新入社員研修会(産)	十日町商工会議所	上村病院健康管理室・江村コ
16日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会(通常版)	ラポート十日町	会員・事務局
17日(水)	北越融雪㈱安全大会　健康講話(産)	北越融雪㈱	上村病院健康管理室・江村コ
18日(木)	十日町市中魚沼郡医師会　役員小委員会	医師会事務局	会長・副会長・事務局
〃	丸福証券十日町支店　健康講話(産)	サンクロス	労医協管理栄養士・江村コ
23日(火)	認知症地域連携を考える会 in とおかまち	十日町情報館	会員・事務局
26日(金)	平成25年度　十日町地域MC協議会	十日町消防署	江村局長
5/ 1日(水)	魚沼地域医療連携ネットワーク協議会	南魚沼市役所	富田会長
3日(金・祝)	十日町市きものまつり　健康相談(産)	十日町市分庁舎	山口副会長・事務局
9日(木)	十日町市中魚沼郡学術講演会(縮小版)	ラポート十日町	会員
10日(金)	十日町市防災会議	十日町市役所	江村局長
17日(金)	妻有地区症例検討会	県立十日町病院	会員
21日(火)	十日町市中魚魚沼郡学術講演会(拡大版)	クロステン	会員・事務局
〃	新潟県・十日町市防災会議前打合せ	十日町市役所	江村局長
22日(木)	丸福証券十日町支店　健康講話	サンクロス	地域振興局講師・江村コ
24日(金)	平成25年　第1回　理事会	十日町市分庁舎	理事・事務局
27日(月)	平成25年度　地域医療研修検討会	南魚沼市役所	富田会長・山口副会長・庭野
28日(火)	平成24年度分　会計監査	医師会事務局	小林監事・林監事・事務局
30日(木)	新潟県・十日町市総合防災訓練会議	千手ｺﾐｭﾆﾃｨｰﾎｰﾙ	江村局長
31日(金)	第1回郡市医師会長協議会	新潟県医師会館	富田会長
6/ 3日(月)	地域医療研修(勝見先生)6/1～30	町立津南病院	慈恵医科大学　勝見俊介
〃	魚沼地域医療連携ネットワーク協議会	南魚沼市役所	富田会長
〃	糖尿病ワークショップ企画委員会	十日町保健所	山口副会長・江村局長
4日(火)	十日町地域在宅医療連携協議会(仮称)	十日町保健所	山口副会長
5日(水)	平成25年度　第1回通常総会	クロステン	会員・事務局
7日(金)	十日町市中魚沼郡学術講演会(縮小版)	ラポート十日町	会員
8日(土)	新潟県看護協会十日町支部　総会	千手ｺﾐｭﾆﾃｨｰﾎｰﾙ	富田会長
13日(木)	医療救護マニュアル説明会	十日町保健所	富田会長・江村局長
14日(金)	十日町労働基準協会　総会	ラポート十日町	江村局長
18日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会(通常版)	ラポート十日町	会員・事務局
19日(水)	㈱津南油圧　健康講話（産）	㈱津南油圧	防災ﾈｯﾄ尾身氏・江村コ
21日(金)	第1回　十日町地域医療連携協議会	十日町市分庁舎	担当会員・事務局
22日(土)	産業保健研究会	新潟県医師会館	江村ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

※記載(産)は、新潟県医師会十日町地域産業保健センター事業です。

日付	名　称	会　場	担当者
6/ 24 日(月)	十日町労働基準協会　衛生部会		労医協管理栄養士・江村コ
26 日(水)	十日町地域在宅医療連携協議会(仮称)	十日町保健所	山口副会長・江村局長
28 日(金)	魚沼地域医療連携ネットワーク説明会	十日町市分庁舎	会員・事務局
〃	休日救急診療所協議会	十日町市分庁舎	会員・事務局
29 日(土)	医療従事者スキルアップ事業　第6回　研修会	十日町情報館	会長・副会長・事務局
7/ 1 日(月)	地域医療研修(山口貴子先生)7/1～31	十日町管内	慈恵医科大学　山口貴子
3 日(水)	県立十日町病院　地域医療連携打合会	県立十日町病院	山口副会長
4 日(木)	十日町地域胃がん読影検討会	医師会事務局	担当医師・事務局
6 日(土)	第 166 回　新潟県医師会臨時代議員会	新潟県医師会館	池田副会長
9 日(火)	地域医療研修　田沢小学校健康教育	田沢小学校	山口研修医・庭野コ
10 日(水)	第 1 回　十日町市・津南町結核対策委員会	十日町市川西庁舎	山口副会長
11 日(木)	第 1 回　国保運営協議会	十日町市役所	富田会長・室岡先生・山口(孝)先生
17 日(水)	平成 25 年度　十日町地域ケア会議	十日町市役所	山口副会長
20 日(土)	第 138 回　医師国保組合会	新潟県医師会館	関 理事
22 日(月)	妻有地区症例検討会	ラポート十日町	会員・事務局
29 日(月)	魚沼地域医療連携ﾈｯﾄﾜｰｸ協議会(米ネット)	南魚沼市役所	富田会長
8/ 1 日(金)	第 1 回　十日町市自立支援協議会	十日町市役所	登坂理事
2 日(金)	新潟県・十日町市総合防災訓練　全体会議	千手ｺﾐｭﾆﾃｨﾎｰﾙ	富田会長・江村局長
7 日(水)	第 1 回　産業保健委員会(TV 会議)	医師会事務局	池田副会長
12 日(月)	新十日町病院説明会	十日町市分庁舎	会員・事務局
〃	第 2 回　理事会	十日町市分庁舎	会員・事務局
20 日(火)	第 1 回プライマリーケアでの認知症	ラポート十日町	会員・事務局
22 日(木)	第 1 回介護保険運営協議会並びに地域包括支援センター及び地域密着型運営委員会	十日町市役所	小林監事・江村局長
〃	新潟県・十日町市総合防災訓練	医師会事務局	富田会長・事務局
〃	尾身県議へ訪問	尾身事務所	富田会長・江村局長
9/ 1 日(日)	新潟県・十日町市合同防災訓練	十日町市総合体育館	富田会長・事務局
〃	地域医療研修(苑田先生)9/1～30	町立津南病院	慈恵医科大学　苑田輝一郎
4 日(水)	住民の医療参加促進事業「大腸がん」	十日町情報館	会長・副会長・事務局
5 日(木)	十日町市中魚沼郡学術講演会(縮小版)	ラポート十日町	会員
7 日(土)	十日町地域糖尿病ワークショップ　2013	クロステン	担当会員・事務局
10 日(火)	十日町市学校保健会	十日町情報館	高木先生
13 日(金)	三魚沼郡市医師会事務局連絡協議会	医師会事務局	事務局
17 日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会(拡大版)	クロステン	会員・事務局
20 日(金)	第1回十日町市市民福祉部との連絡協議会	十日町市分庁舎	会長・山口副会長・事務局
22 日(日)	平成 25 年度日本医師会認定産業医研修会	クロステン	申込医師・事務局
24 日(火)	糖尿病ワークショップ企画委員会	十日町保健所	山口副会長・江村局長
〃	魚沼地域医療ﾈｯﾄﾜｰｸ協議会(米ねっと)	南魚沼市役所	富田会長

※記載(産)は、新潟県医師会十日町地域産業保健センター事業です。

日付	名　称	会　場	担当者
9/25 日(水)	住民の医療参加促進事業「禁煙教育」	十日町中学校	鈴木先生・江村局長
〃	在宅医療連携協議会準備委員会(在宅医療ねっと)	十日町保健所	山口副会長・江村局長
26 日(木)	妻有地区症例検討会	県立十日町病院	会員
30 日(月)	㈱クローバーフォー　健康講話(産)	㈱ｸﾛｰﾊﾞｰﾌｫｰ	上村病院健康管理室・江村コ

※記載(産)は、新潟県医師会十日町地域産業保健センター事業です。

会員消息

◎入会　：　小幡　昌文　先生（新潟県立十日町病院）
　　大森佐一郎　先生（介護老人保健施設「きたはら」）
◎退会　：　小幡　昌文　先生（村上市岩船郡医師会へ。開業の為）
　　藤巻　定則　先生

会員訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
藤巻　定則　先生　平成 25 年 8 月 31 日死亡　享年 89 歳

お知らせ

- 富田三郎先生より、医師会へ「旭日双光章」のお祝いのお礼に防災ヘルメットを寄贈して頂きました。
- 室岡　寛先生より、医師会へ「瑞宝小綬章」のお祝いのお礼を頂きました。

■□■□ 編集後記 ■□■

５６年ぶりの東京オリンピック開催が決まりました。私は、昭和３９年５月生まれなので辛うじて２回目のオリンピックと自慢しています（前回のオリンピック当然全く記憶にはありませんが)。

今回のつまりぽーとは、２回目のオリンピックへ向かう日本の、医療の問題点のとらえたご意見を多く賜りました。

小林先生が巻頭言に述べられておられましたように、日本全体のテーマである介護保険は、極めて舵取りが難しい状況になっていくと思われます。経験したことのない高齢化社会を迎え十分な議論が望まれます。一方地域の課題といたしましては、塚田先生が、新十日町病院構想について、そして富田医師会長からは救急体制の整備への提言を頂きました。特に新十日町病院のスタッフに関する見通しは、もう少し地域としても認識を深め、問題を捉えていくことが必要なのではないでしょうか。地域の医療人的資源の強化に取り組むことは、まさに焦眉の急であると考えさせられました。

今年の、流行語を使わせて頂ければ、「地域の医療スタッフ充実策、いつやるの、今でしょ！」

（広報担当理事　関　真人）

■□■

発行：一般社団法人十日町市中魚沼郡医師会
〒948-0082
新潟県十日町市子 226 番地 1
本町分庁舎 2 階
TEL 025(752)3606・FAX 025(750)1422
E-mail　to.na-ishikai@luck.ocn.ne.jp